4.6-12 埋蔵文化財調査室

庄・蔵本遺跡藤井節郎記念医科学センター地点の水田跡

常三島遺跡フロンティア研究センター地点の石組み遺構

新蔵遺跡の解説パネル

常三島遺跡の解説パネル

市民講座の風景

埋蔵文化財調査室

徳島大学の三つのキャンパスは、すべて遺跡の上に立地している。埋蔵文化財調査室は、本学施設整備に伴う遺跡の調査・研究と、その成果を活用した大学教育・地域貢献を業務としている。これまでに再開発に伴って50件以上の発掘調査を実施し、そこで得られた成果は、考古学界・歴史学界に大きく貢献してきた。

蔵本キャンパスに所在する庄・蔵本遺跡は、弥生時代初期の農耕集落跡としては、墓地や居住地、水田、畑などからなる全体像が判明した稀有な例である。新蔵キャンパスでは上級武家屋敷跡が、常三島キャンパスでは、中・下級武家屋敷跡が調査され、当時の武士たちの生活を今に伝える貴重な資料が得られている。これらの資料は、全国の国立大学のなかでも質・量ともにトップクラスのものである。

2010（平成22）年～2019（令和元）年の主な活動は、発掘調査16件、ライフライン等の整備にともなう工事立会調査79件、報告書5冊、紀要4冊、ニュースレター5冊、展示会8件、市民講座8件である。発掘調査の内訳は、蔵本キャンパス12件、常三島キャンパス3件、石井キャンパス1件で、石井キャンパスでの調査はこれが初めてだった。報告書の内訳は新蔵遺跡1冊、庄・蔵本遺跡3冊、常三島遺跡1冊である。新蔵遺跡と常三島遺跡の報告書は、近世徳島の考古学・歴史学研究、庄・蔵本遺跡の報告書は、弥生時代の考古学研究に大きく貢献するものであり、この間、研究成果の迅速な発信を目的として、新たに紀要とニュースレターの刊行を始めたことも特筆されるものである。展示会と市民講座はともに、大学構内遺跡の研究成果を、地域社会に分かりやすく伝えることを目的としたもので、盛況であった。2018（平成30）年には、本室が所在していた看護師宿舎の取り壊しに伴い、蔵本キャンパスから常三島キャンパスへ移転した。

業務の中心は、それまでは発掘調査だったが、大学構内での再開発が一段落したこともあり、出土品の整理作業と報告書の刊行へと移っている。報告書の刊行をいかに効率的・合理的に行うか、さらに、この成果を地域社会のなかでいかに活用するかが現在の課題である。

第17回特別展徳島大学の至宝3

庄・蔵本遺跡藤井節郎記念医科学センター地点の水田跡

常三島遺跡地域連携プラザ地点の屋敷境溝